

大曲輪貝塚について

おおぐらわかいづか 大曲輪貝塚

所在地	： 名古屋市瑞穂区 ^{やましたどおり} 山下通五丁目1番
指定面積	： 既指定面積 354.54 m ²
	追加指定面積 134.98 m ²
	合計面積 489.52 m ²

【概要】

大曲輪貝塚は、名古屋市東部の丘陵地を水源とした山崎川に面した八事丘陵の西端にあり、標高7m前後の段丘面に立地する縄文時代前期の貝塚である。また、大曲輪貝塚は縄文時代の貝層が残存する史跡指定地の名称であり、史跡指定地の周囲に広がる遺跡全体は大曲輪遺跡と呼ばれる。

現在、大曲輪貝塚の周辺は、陸上競技場、ラグビー場、野球場などが設置された瑞穂公園として整備されており、史跡指定地は、陸上競技場メインスタンドの北西側に位置する。

1939（昭和14）年、陸上競技場の建設工事の際に、大曲輪遺跡が発見され、同年、愛知県史蹟名勝天然記念物調査会^{おぐりてつじろう}の小栗鉄次郎らにより発掘調査が実施された。この調査結果を受け、1941（昭和16）年1月に遺跡の中心となる貝層の範囲が史跡に指定された。

2018（平成30）年度および2019（令和元）年度に名古屋市教育委員会が現在の史跡指定地周辺の試掘調査を実施し、指定地東側に貝層が広がることが確認された。このことから、更なる保存を図る必要があり、史跡の追加指定がされることとなった。

大曲輪貝塚は、縄文時代前期の貝塚であり、ハイガイ・カキ・ハマグリを主とした貝類、土器、石器のほかに、東海地方では類例が少ない板状土偶^{ばんじょうどぐう}が貝塚周辺で出土しており、当時の生業や祭祀に関する豊富な情報を得ることができる。

また、大曲輪貝塚は東海四県において、初めて国の史跡に指定された縄文時代の遺跡で、その点でも重要である。



大曲輪貝塚の位置



大曲輪貝塚 (南西から)



大曲輪貝塚 試掘調査状況